

平成30年度の主な取組

情報誌「care Jr.」の作成



部数：20,000部
 対象：職業について意識し始める中学1年生にターゲットを絞って配布
 配布先：県内の中学校等
 その他、ホームページや情報アプリのならプラス等で掲載

【教育現場での活用】

・中学2年生の職場体験実施にあたり、職業を知ってもらうため、中学1年生の総合学習の時間に活用した等の話を伺う。

大学キャラバンの実施

平成31年1月17日 桃山学院大学



平成31年1月25日 帝塚山大学



* 他、天理大学で平成31年3月13日実施

平成30年11月17日 奈良佐保短期大学



・大学のイベントやゼミの時間を活用し、ゲストスピーカーとの座談会や講演等を実施
 ・また、イベントでは来場者に対して、パンフレット等の広報ツールを配布し、認証制度の周知を広く行う。
 ・講演の参加者からは「普段の授業とは違う体験でリフレッシュできた」、「実際に介護の仕事に関わる人から話を聞く事ができ、授業で学んだことを再確認する事ができた」等概ね前向きな意見があった。

認証マークを活用した周知

メモ用紙やあぶら取り紙など、学生等の若い世代や女性等にも周知するため、手軽に使える広報ツールを活用。イベント等で配布した。



平成31年度の改善点

- ・平成30年度までは、福祉・介護の仕事に興味を持ってもらうきっかけとして、より多くの方がもつ「福祉・介護の仕事に対するイメージ」をアップするため、情報誌の作成や、広報ツールの制作、ポータルサイトの構築等、広報媒体の作成を続けてきた。
- ・これらの広報媒体をさらに活用するためには、福祉・介護の現場で働いているスタッフの声を直接届け、福祉・介護職の「リアル」を伝える必要がある。
- ・その上で、福祉・介護職が他の職に比べて特別ではなく、どんな仕事にも「プラス面、マイナス面」があること、しかし、福祉・介護職は必要とされている重要な仕事であることを伝え、将来の職業選択のきっかけとする。



(新) 若手福祉・介護職員による(仮称)福祉・介護の仕事PR隊(案)

【目的】

急速な高齢化の進展に伴い、介護のニーズがますます高まる中で、団塊の世代が後期高齢者になる2025年には、本県の介護職員は約5000人不足すると推計されている。しかし、介護の仕事に対するイメージは、マイナス面がクローズアップされがちで、職業としての福祉・介護への理解不足が浸透している。そこで、**県内福祉・介護の認証事業所に勤務する若手福祉・介護職員の方々を「(仮称)福祉・介護の仕事PR隊」として委嘱し、若者等に対して介護の仕事の魅力などをダイレクトに情報発信することにより、理解促進を図るとともに、就労につなげる。**

